# 「戦争のない沖縄」

古堅小　四年　玉城　悠斗

ぼくは、平和な沖縄をねがっています。前みたいに、戦争になるとぼくたちも、みんなもなくなる事があるので、ぼくはいやです。おじいちゃんも戦争に行ってもどってきたので、その話を聞いてびっくりしました。ぼくのおじいちゃんが生きていてくれたからぼくが生まれたから、ぼくのおじいちゃんたちにとっても、とっても感しゃしています。

ぼくは日本人もなくなってしまうのがいやだけど、外国人もなくなってしまうのも、とてもいやです。今から六十五年前の戦争の時ぼくたちと同じ小学生が、三せきの船に乗って九州に向っている中に、一せきの船が外国のこうげきにねらわれてなくなってしまった人もいるそうです。とってもかわいそうと思いました。先生のお母さんもその一人だそうです。しかも、親とはなれて来たのでかわいそうです。ぼくには、

「こわいよぉ。お母さん。」
「さみしいよぉ。おなかすいたよぉ。」
と、聞こえます。船に乗っている子どもたちのさみしい声です。ぼくと同じ四年生でぼくがこの船に乗り、遠い所で、そがいするなんて、こうげきに当たったら、自分たちも死んでしまうと考えただけでとってもいやです。
おじいちゃんからこんな話を聞いた事もあります。
「悠斗、おじいちゃんは戦争に行ってそのとき中外国人に、うたれそうになった時があったんだよ。その時はとってもびっくりしたよぉ。」
という話を聞いて、とってもびっくりしました。
戦争とは、本当にひどい事です。人をころしあって、自分はうたれるからと言ってじさつする人もいたそうです。戦争はとってもおそろしい事なので、やっぱりぼくはいやです。
ぼくたちが大きくなっても戦争のない平和

でいるためには、ぼくに何かできるでしょう。平和な沖縄を願うために、できる事は協力したいです。ぼくはケンカをしない事をします。沖縄にきちを作るのは、いやです。そのきちも日本には作らないほうがぼくはいいと思います。たくさんの命がうばわれるのはとってもいやです。なので、ぼくたちにできる事は全部沖縄が平和になる事をしようと思います。

例えば、ぼくのクラスには、こうりゅうで外国の友だちがやって来ます。そしてその外国の友だちと仲よくなると、それも平和になります。その友だちと、よく休み時間にサッカーをしてその友だちは、キーパーが上手です。もうてんこうしてしまうけど、ちがう学校にいてもずっと友だちです。こんなぼくの気持ちが平和につながるのかもしれない。

ぼくは、沖縄も平和がいいと思うけど、世界じゅうもケンカをしないでほしいです。だから、ぼくたちは、沖縄の平和のためにケンカをしない平和な沖縄を作りたいです。

コクヨ　ケ−10　20×20